

知的障害が軽い生徒の中学校から 知的障害特別支援学校への進学支援に関する調査研究

- 進学支援シート（学力・作業能力等評価票）の試作 -

所属校：東京都立足立養護学校
氏名：竹 脇 礼 子
派遣先：東京学芸大学大学院

キーワード：特別支援教育・進学指導・教育相談・学校間連携

研究の目的

1 知的障害特別支援学校高等部普通科における社会自立への支援

都立知的障害特別支援学校においては、高等部卒業生の30%程度が一般企業に就労している。特例子会社の設置、ジョブコーチの導入等、障害者の企業就労における就労環境の整備が雇用に結びついていくと考えられる。「福祉、教育等の連携による障害者の就労支援の推進に関する研究会（厚生労働省）の報告書から「ハローワーク、地域障害者職業センター等と特別支援学校との連携が今後重要」と記されており、特別支援学校における就労支援の在り方が今後の大きな課題と考えられる。福祉、労働等の関係機関との連携はもとより、教育機関においても長期的に同様の視点で支援していくことのできるシステムの構築が、重要となってくる。

2 知的障害特別支援学校普通科における入学相談の現状

東京都では高等部入学者の許可、入学の選抜は「学校教育法施行規則」に基づき入学相談の名称で実施している。入学相談願書提出時には、入学願書、調査書、障害があることを証明できるもの（愛の手帳又は医師診察記録）さらに入学相談資料として保健調査、入学相談面接票等が必要な書類となっている。調査書は学籍・指導に関する調査書が正式の名称であり、生徒の学習の記録等が記載される。入学相談面接票は、入学相談日に保護者への聞き取りを行い記入する。以上の資料をもとに入学してくる生徒の実態を把握し、指導計画につなげる。

以上1、2の状況を踏まえ、高等部卒業後の自立した、社会参加を目指すために中学校と特別支援学校高等部における連携と、よりよい引き継ぎの在り方について検討していくことを目的とした。

研究の方法

「都立知的障害特別支援学校に進学した知的障害が軽い生徒の出身中学校での進学支援及び特別支援学校との連携の現状

検討 では、中学校における校内支援体制の取り組みや、特別なニーズを必要とする生徒への進学支援、特別支援学校との連携について現状と課題について把握を行うことを目的とし、都立知的障害特別支援学校へ進学した生徒の出身中学校の教師 19 名に対して聞き取り調査を行った。

検討 では、都立知的障害特別支援学校高等部（普通科）での入学相談及び中学校との連携の現状と課題について把握を行うことを目的とし、都立知的障害特別支援学校の教師 10 名に対し聞き取り調査を行った。

検討 では、都立知的障害特別支援学校へ進学した中学校出身の生徒とその保護者への聞き取り調査によって、中学校での進学支援、特別支援学校での生活、中学校と特別支援学校の連携の現状と課題を把握することを目的とした。調査対象は各 16 名 32 組であった。

検討 では、検討 から検討 の結果と考察を受け「中学校から特別支援学校への進学支援シート」の作成と、その実用性、有効性の評価を目的とした。実用性、有効性の評価では特別支援学校の教師 10 名に対して聞き取り調査を行った。

検討 から検討 の結果は図表及びKJ法を用いて整理した。

研究の結果

1 検討 の結果

(1) 校内における特別支援教育への取り組みでは特別支援教育コーディネーターの指名、校内委員会の設置はほとんどの学校で行われていた。

(2) 進学支援では知的障害特別支援学校への進学者が9割であった。

(3) 特別支援学校との連携では引き継ぎケース会や合同の研修会の実施が行われていた。

2 検討 の結果

(1) 生徒の出身学級は7割が中学校からの進学者で、愛の手帳の未取得者は通常の学級と特別支援学級（通級指導学級）出身者が全体の4割を占めていた。

- (2) 通常の学級との連携等については特別支援学校からの情報発信が重要との意見があった。
- (3) 特別支援学級との連携等については固定学級とは連携がとれているが、通級指導学級との連携については課題が挙げられた。
- (4) 卒業生の進路は30%が一般就労していた。

3 検討の結果

- (1) 中学校での進路指導では、通常の学級の教師に対して特別支援教育の専門性を高めてほしいとの要望があった。
- (2) 特別支援学校での生活については、教師の専門性に満足しているが、障害の多様化に沿った教育を一層充実させることが求められる結果であった。
- (3) 学校間の連携については高等部卒業後を見据えた引き継ぎ、情報提供の要望があった。

4 検討の結果

(1) 進学支援シートの作成

検討 から検討 において明らかになった、中学校から知的障害特別支援学校高等部への進学時の引き継ぎの必要性と現状での課題、高等部へ進学後の個々のニーズに合った支援の在り方を検討して進学支援シートを作成した。作成に当たっては、東京都知的障害特別支援学校職業学科入学相談様式「学習・指導等に関する調査書：学力・作業能力等調査」(東京都教育委員会, 2006)「就労移行支援のためのチェックリスト」(厚生労働省, 2006)「軽度発達障害のある若者の学校から職業への移行の課題に関する研究」(障害者職業総合センター, 2006)「一般就労を実現するための課題」(障害者職業総合センター, 2002)を参考にした。

その結果、4領域28項目からなるチェックリストを作成した。4領域は、1生活・健康 2基本的生活スキル 3就労スキル 4知識理解で構成されさらにそれぞれの領域に4～9の項目(28項目)がある。項目には5段階による段階チェックがあり、～に該当する項目についてはさらに状態のチェックを行う。備考欄にはチェック項目に該当する答えがない場合や、補足することがある場合に記述する。

「進学支援シート(学力・作業能力等評価票)活用の手引き」は進学支援シート記入の目的、記入方法、構成について記した。また、それぞれのチェックリストの評価についての留意事項、評価の方法について項目ごとに詳細に表記した。

- (2) 進学支援シートの有効性、実用性に対する評価目的、方法、構成、評価については概ね適切と評価された。領域・項目についても新たに携帯電話の利用等、高等部の教師の視点からの項目追加があった。活用方法については単なる引き継ぎだけでなく就労支援のツールとして検討していきたい、との意見があった。

表「進学支援シート(学力・作業能力等評価票)」(例)

生活・健康の領域

*一部掲載

項目	チェック項目	備考欄
生活リズム	規則正しい生活ができる	
	だいたい規則正しい生活ができる	
	規則正しい生活があまりできない	
	規則正しい生活がほとんどできない	
	規則正しい生活ができない	
	～に回答した場合、以下のうちどれにあてはまりますか a、朝、自分で起きることができない b、睡眠、覚醒のリズムが確立されていない c、その他	

就労スキルの領域

項目	チェック項目	備考欄
作業意欲	作業意欲が強い	
	作業意欲がおおむねある	
	作業意欲があまりない	
	作業意欲はほとんどない	
	作業意欲はない	
	～に回答した場合、以下のうちどれにあてはまりますか a、任された作業をていねいにやり遂げようとする b、任された作業を最後までやり遂げようとする c、作業に取り組めない d、その他	

考察

1 結果のまとめ

中学校においては、特別支援教育への転換によって校内支援の取り組みが進められている。

しかし、個々の教師の障害理解や、特別支援学校に対する理解には課題もあり、今後は特別支援学校から積極的に情報発信していくことが特別支援学校高等部の啓発につながっていくと考えられる。個々の生徒の将来を見据え、支援に役立つ引き継ぎ方法の構築について検討していくことが今後は重要である。

2 今後の課題

障害者雇用における国・東京都の動向を意識した学校間における社会自立への支援方策の検討と、「進学支援シート」の活用方法の検討が必要である。